

【指導事例4】「国語総合」「読むこと」の領域における言語活動例を踏まえた指導（批評文）

1 「国語総合」「読むこと」の指導事項と言語活動例

新学習指導要領（平成21年3月公示）第2章，第1節国語，第2款各教科，第1国語総合の「2内容，C 読むこと」に「(1)次の事項について指導する」として，次の5項目がある（以下「指導事項」）。

- ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。
- イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり，必要に応じて要約や詳述をしたりすること。
- ウ 文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わうこと。
- エ 文章の構成や展開を確かめ，内容や表現の仕方について評価したり，書き手の意図をとらえたりすること。
- オ 幅広く本や文章を読み，情報を得て用いたり，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにしたりすること。

また，「(2) (1)に示す事項については，例えば，次のような言語活動を通して指導するものとする」として，次の4例が取り上げられている（以下「言語活動例」）。

- ア 文章を読んで脚本にしたり，古典を現代の物語に書き換えたりすること。
- イ 文字，音声，画像などのメディアによって表現された情報を，課題に応じて読み取り，取捨選択してまとめること。
- ウ 現代の社会生活で必要とされている実用的な文章を読んで内容を理解し，自分の考えをもって話し合うこと。
- エ 様々な文章を読み比べ，内容や表現の仕方について，感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。

「読むこと」の指導事項においては，「表現に即した理解（指導事項ア）」・「文章の解釈（指導事項イ・ウ）」・「考えの形成（指導事項エ）」・「読書・情報活用（指導事項オ）」といった学習の過程に沿った構成がなされている。これは，小学校及び中学校において学習の過程に沿った内容の構成がなされていることを受けるとともに，「各教科・科目等の指導に当たっては，生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるようにすること。（「総則」第5款の(5)）」とも関連している。

こうした改訂のねらいを踏まえ，指導事項と具体的な単元の指導とを対応させ，指導改善を図るために，【資料1】「具体的な評価規準の設定例（読む能力）」の表中「『読む能力』に関する評価規準の設定例」のように細分化した。例えば，指導事項アは，a①からa③までの3事項に細分化しており，指導事項アから指導事項オまでの5事項をa①からe②までの合計15事項の評価規準例に分割した。実際の指導においては，これらの複数を同時に指導することも多いが，指導事項アの表現に即した理解に関する指導事項を文章の形態によって3項目に細分化するなど，指導の重点を明確化し，「国語総合」の全体を通してバランスの取れた指導となるように細かく設定した。

本指導事例では、単元の評価規準とすることのできる例として、指導事項を基に設定した15事項のそれぞれに対応させて、言語活動に応じた具体的な評価規準の設定例を当てることを原則とする。ただし、a①②③の項目は、文章の形態により細分化した項目であるため該当しない項目がある。また、設定する言語活動は学習指導要領の言語活動例として挙げられているものの中から設定し、教材は現行の「国語総合」の教科書から選定する。

2 文字や画像などによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめる言語活動を通した指導

(1) 指導事項と言語活動との整合性

国語総合の「読むこと」の領域における指導事項から設定した15事項に「言語活動例イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること」を組み合わせたものが、【資料1】の表中にある「言語活動における具体的な評価規準の設定例」である。なお、言語活動例ではメディアの種類として「文字」・「音声」・「画像」が例示されているが、ここでは「音声」を除いて設定した。

指導事項が学習の過程に沿った内容の構成となっているため、情報を取捨選択してまとめる言語活動においても、それぞれの過程に対応した指導を実施することが可能であり、【資料1】における評価規準の設定例では、15項目中13項目について設定例を記載した。a②にある論理的な文章の形態に応じて読むことに関する指導も、生徒の実態によっては主たる教材に関連して幅広い文章を読む能力を身に付けさせる目的で、文学的な文章に関わる論理的文章を読むことについて指導するという計画であれば、具体的な評価規準を設けることも考えられる。

実際の指導に際しては、年間の指導と評価の計画の見通しによって重点化して取り上げる。

例えば、指導事項アを基に設けた「a① 文学的な文章について、内容と、形態に応じた表現の特色とを理解して文章を読んでいる」の事項に対応する指導として、例えば物語、詩歌などの形態の特徴に応じた読みの指導をすることが想定できる。しかし、この単元とは別に文学的文章の形態に応じた表現の特色を理解して読むことの指導が設定されているならば、ここでは重点項目としないことも考えられる。

このように、設定した言語活動を通して指導することができる指導事項であっても、年間計画全体の見通しによって、この単元での重点項目とすることの必要性を検討することになる。もちろん、ここで指導と評価の重点として扱わない事項であっても、例えば、指導事項イ、特にb①の「文脈をとらえ、語句や表現に注意して、筆者の考えなどを過不足無く理解している」に対応する学習活動はほとんどの単元で指導が必要であるが、ここでは重点化した指導と評価の対象として位置付けていないということである。また、指導事項オに対応する「具体的な評価規準の設定例」を示してはいるが、本指導事例においてはこれに対応する学習活動そのものを設定していない。この設定例は、学習の過程として指導することができる例を示したものである。

(2) 教材の選定

指導事項と言語活動との整合性及び、生徒の実態に応じた年間計画における位置付けに配慮し、ふさわしい教材を選定する必要がある。

本指導事例の教材選定に当たって配慮した条件の概要は以下の点である。
まず、高等学校1年を対象とした単元とすること。

次に、対応する指導事項は、「指導事項ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと」、「エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること」を設定すること。

また、上記の指導事項を、言語活動例イにある「文字や画像などによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめる言語活動」を通して指導するものとし、ふさわしい教材を現在使用している「国語総合」の教科書から選定すること。

以上の点を考えて教材を選定するが、まず「文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりする」ためには、文章の構成などに際立った特色があり、書き手の表現意図がとらえやすい教材が適切である。また、文章に描かれた情景や人物、心情などを表現に即して読み味わうための指導手段として、同一の素材を映像によって表現したものと比較するという活動は効果的である。このことは、映像化された文学作品に接した時に誰もが抱く感慨を思い起こしてみれば明らかである。画像によって表現されたものを目にしたときの違和感を言葉にしたり、画像の表現が文学作品のどの表現に基づくものかを考えたりすることは、文章そのものを表現に即して読み味わうための有効な手だてである。表現に即して理解するだけでなく、読み味わい、評価する能力を育てる単元にふさわしい教材を選定する必要がある。

そこで、教科書掲載の定番教材ともいえる次の教材を選定した。

教材 『高等学校 改訂版 国語総合』第一学習社 物語を楽しむ『伊勢物語』「芥川」

教科書には『伊勢物語』第六段の半ばにある和歌までしか掲載されていないが、掲載されている「芥川」前半の超現実的な内容と、省略されている後半の現実的な暴露的内容とが和歌によって分断されつつ全体として一つの章段にまとめられていることの効果について考えたり評価したりするのに適切な教材であるといえる。

また、挿絵として「芥川」（伝俵屋宗達筆）と「芥川」（模本『伊勢物語絵巻』）が掲載されている。後者は右から左への絵巻物における時間の流れに従っていくつかの場面が絵画化されており、最後の場面では赤鬼が女を捕らえている場面が描かれている。これは、掲載本文の内容とは合致するが、『伊勢物語』第六段「芥川」では、この後に女は兄弟たちによって連れ戻されたという真相が語られるのであり、『伊勢物語』そのものの内容とは合致しない。

また、「芥川」を素材とした絵画の多くは、男が女を背負って徒歩で川のほとりを逃げる場面を描いたものであり、ウェブページでも数種類を閲覧することができる。本単元化に際しては、本文解釈の違いが読み取りやすい絵画を4点選択してプリントしたものを教材とする。

(3) 単元の計画

単元案

- ・ 単元名 「伊勢物語絵」から『伊勢物語』を読もう。
- ・ 教材
 - ・ 『伊勢物語』「芥川」（第一学習社『高等学校 改訂版 国語総合』）
 - ・ 伊勢物語絵 絵1・「伊勢物語図色紙」（伝 俵屋宗達筆）
絵2・嵯峨本『伊勢物語』挿絵 絵3・奈良絵本『伊勢物語』
絵4・『新釈絵入伊勢物語』（竹久夢二 絵）
- ・ 単元の目標
 - (一) 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。
 - (二) 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりする。

- ・ 単元の評価規準 (一)『伊勢物語』第六段「芥川」の表現に即して、登場人物の行動やものの見方や感じ方を理解し、人物の心情の変化を読み取っている。(c①)
- (二) 男女の置かれた状況や言動を理解するために、時、天候や露の設定効果を考えている。(c②)
- (三) 和歌に詠まれた男の心情を読み取り、自分自身に置き換えて共感したり批判したりしている(c③)
- (四) 和歌に続く本文の有無それぞれの場合における設定の相違を確かめている。(d①)
- (五) 和歌に続く本文の有無それぞれの場合における和歌に込められた男の心情を比較し、内容について判じている。(d②)

・ 指導計画 全5時間

時限	学習内容	具体的な評価規準
1 2 3	・ 教材文「芥川(和歌まで)」を読み時、天候や露の設定効果を考えて男女の置かれた状況や言動を理解して、和歌に詠まれた男の心情を読み取る。	c① 『伊勢物語』第六段「芥川」の表現に即して、登場人物の行動やものの見方や感じ方を理解し、人物の心情の変化を読み取っている。 c② 男女の置かれた状況や言動を理解するために、時、天候や露の設定効果を考えている。
4	・ 和歌に続く本文の有無により、内容にどのような相違が生じるかを、グループごとの話し合いを通して考え、批評文を書く。	c③ 和歌に詠まれた男の心情を読み取り、自分自身に置き換えて共感したり批判したりしている。 d① 和歌に続く本文の有無それぞれの場合における設定の相違を確かめている。 d② 和歌に続く本文の有無それぞれの場合における和歌に込められた男の心情を比較し、内容について判じている。
5	・ 複数の伊勢物語絵の相違を読み取りそれぞれが第六段における登場人物の行動やものの見方や感じ方、心情の変化についてどのような解釈を反映したものであるかを、グループごとの話し合いを通して考え、批評文を書く。	c① 『伊勢物語』第六段「芥川」の表現に即して、登場人物の行動やものの見方や感じ方を理解し、人物の心情の変化を読み取っている。

(4) 学習指導案の例

国語科学習指導案

一 日 時 平成〇年〇月〇日

二 クラス 第〇学年〇組

(「三 単元」、「四 教材」、「五 単元の目標」、「六 単元の評価規準」、「七 指導計画」、「八 本時の目標」、「九 本時の評価規準」は記載省略。単元案参照。)

十 本時の指導

・ 5時間中の4時間目

学習段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の実際
導入 (10分)	・ 単元の目標理解 ・ 本時の学習目標理解	①・ 単元の目標、本時の目標と言語活動について確認する。 ・ 前時の確認と教科書に続く後半の本文を知る。	①・ 評価の観点を基にして、単元の目標を示す。 ・ 章段の全文を読み、和歌より後の本文があることの効果について考える批評文を書くことを示す。

展開 (35分)	・文章の構成や展開の確認	②・和歌に続く本文の有無により、内容にどのような相違が生じるかを、グループごとの話し合いを通して考える。	②・和歌に続く本文は古文だけでなく現代語訳も教材とする。 ・項目ごとに対照表を作成して比較させる。 ・相違点が明らかになるように項目ごとの対照表を作成させる。
終結 (5分)	・次時までの課題確認	③・次時までには、比較によって明らかになった相違点に基づいて、和歌に続く本文の必要性を判じる批評文を書く。	③・記述の相違点について述べるだけでなく、設定や心情等の相違について比較した上で、判断を明確にした批評文を書かせる。 ★設定の相違や、和歌に込められた心情の相違に基づいて、第六段の和歌に続く本文の必要性を判じているかを対照表と批評文によって評価する。 (c③, d①, d②)

・5時間中の5時間目

学習段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の実際
導入 (10分)	・単元の目標理解 ・本時の学習目標理解	①・単元の目標、本時の目標と言語活動について確認する。	①・評価の観点を基にして、単元の目標を示す。 ・4点の伊勢物語絵を紹介し、それぞれを解釈の反映としてとらえさせる。 ・解釈の相違が明らかになりやすい絵を選択して教材とする。
展開 (35分)	・伊勢物語絵の比較	②・4種類の伊勢物語絵から受ける印象の違いのあることに気づく。 ③・それぞれの絵の特徴と本文との関連をグループごとの話し合いを通して考える。 ④・『伊勢物語』第六段「芥川」の挿絵として最も適切だと判断する伊勢物語絵を選択し、その判断の根拠となる本文の解釈を述べる批評文を書く。	②・相愛度が最も高いと感じる絵を選択させることで、4枚の絵の印象の違いと、見る者による受け取り方の相違があることを理解させる。【資料2】 ③・相違点が明らかになるように項目ごとの対照表を作成させる。【資料2】 ④・絵を選択する際に、単なる印象でなく、根拠となる解釈を明らかにして批評させる。 ★それぞれの絵の表現意図をとらえ、本文の解釈と関連付けているかどうかを批評文の記述から評価する。(c①)
終結 (5分)	・授業のまとめ	④・「伊勢物語絵」に表現された『伊勢物語』第六段「芥川」の解釈について批評する文を書くことを通して、本文を読み味わう学習であったことを確認する。	④・机間指導の際に、生徒の批評文の内容を確認しておき、数点の内容を紹介して読みの深まりを評価する。

【資料1】「具体的な評価規準の設定例（読む能力）」

【学習指導要領】 (1) 次の事項について指導する。	「読む能力」に関する 評価規準の設定例（15項目）	重点化	言語活動における 具体的な評価規準の設定例
ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。	a① 文学的な文章について、内容と、形態に応じた表現の特色とを理解して文章を読んでいる。		・歌物語における和歌と散文との関係を理解して読んでいる。
	a② 論理的な文章について、内容と、形態に応じた表現の特色とを理解して文章を読んでいる。		・該当無し
	a③ 実用的な文章について、内容と、形態に応じた表現の特色とを理解して文章を読んでいる。		・該当無し
イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。	b① 文脈をとらえ、語句や表現に注意して、筆者の考えなどを過不足無く理解している。		・古語の意味を理解し、物語の設定や内容を理解している。
	b② 読む必要に応じて、文章を要約している。		・和歌に続く本文の有無それぞれの場合における事件のあらましを要約し、設定の相違を端的に述べている。
	b② 読む必要に応じて、文章の一部を詳述している。		・絵画から読み取ったことを述べる際に、和歌に続く本文の有無それぞれの場合における、男女の心情を詳しく説明している。
ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。	c① 表現に即して、登場人物の、行動や性格、ものの見方、感じ方、考え方、ひいては生き方を的確にとらえて、人物個々の心情の変化や、人物相互の関係の変容を読み取っている。	○	・『伊勢物語』第六段「芥川」の表現に即して、登場人物の行動やものの見方や感じ方を理解し、人物の心情の変化を読み取っている。
	c② 情景が、人物の心情の反映や象徴、物事が起こる予兆などとして設定されていることを理解し、表現に即して、人物の言動、置かれている状況を理解する手掛かりとしている。	○	・男女の置かれた状況や言動を理解するために、時、天候や露の設定効果を考えている。
	c③ 登場人物の心情に思いをいたし、自らの生き方と重ね合わせて共感したり反発したりしている。	○	・和歌に詠まれた男の心情を読み取り、自分自身に置き換えて共感したり反発したりしている。
エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。	d① 文章の組立て等の構成と、考えの進め方や内容の推移等の展開を確かめている。	○	・和歌に続く本文の有無それぞれの場合における設定の相違を確かめている。
	d② 文章の内容や表現の仕方について、規準や根拠を明確にして判断することができる。	○	・和歌に続く本文の有無それぞれの場合における和歌に込められた男の心情を比較し、内容について判断している。
	d③ 段落に注目し、書き手の思考の流れから強調点を読み取り、執筆動機や表現意図を考えている。		・『伊勢物語』第六段「芥川」の構成から物語の生成や享受の在り方について考えている。
オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。	e① 文学的、論理的、実用的文章等幅広い形態の、多様な内容の文章を、様々な方法で探して読んでいる。		・注釈書やウェブページなどで『伊勢物語』のうち業平と高子をモデルにしたとされる章段を選んで読んでいる。
	e② 本や文章によって得た情報を選択、評価、加工している。		・『伊勢物語』のうち「芥川」を含む複数の章段を紹介し、「昔男」に託された美意識を抽出している。
	e③ 幅広く本や文章を読み、書き手の意図をとらえ、読み味わうことによって自分なりの考えをもつようになっている。		・『伊勢物語』や関連する本、ウェブページなどを読み、伝統的な美意識について考えている。

【資料2】伊勢物語絵「芥川」の比較のためのワークシート例（5時間目）

伊勢物語絵「芥川」の比較 年 組 番 氏名

1 4種類の伊勢物語絵から受ける印象を比較し、相愛度が高いと感じる順に並べ替えなさい。
 [] → [] → [] → []

2 当てはまる項目に○を付けなさい。

項目	絵1	絵2	絵3	絵4
男が女を背負っている				
（秋の）草（露）が描かれている				
柳の木が描かれている				
男が裸足である				
男が沓（くつ）を履いている				
男が草履を履いている				
男と女が同じものを見ている				
男と女が見つめ合っている				
男と女が別のものを見ている				
右から左に逃げている				
左から右に逃げている				
月が出ている				
建物（倉）が描かれている				